

文責 堀正敏

1. 2023-2024 年度第 1 回理事会より

a) 獣医学奨励賞

第 110 号 岸 和寿 (東京大学大学院農学生命科学研究科獣医薬理学研究室)

現: テルモ株式会社 評価センター

「糖尿病における消化管運動異常の分子機構解明と病態治療への応用」

b) 分科会保留金の使途について

本分科会のみ 200 万円を超える保留金について指摘。第 167 回の本学会までに
確実に保留金を 100 万円未満とすること。(例) 海外研究者招聘など。

計画されていたが執行されず、結果として 200 万円を超える保留金となった。来年度の本学会での海外研究者招聘を行うことで経費の執行を目指す。今後プログラム委員等で協議を進めることとした。

c) 2024-2025 年度役員改選による理事・幹事候補者及び評議員

基礎獣医学系専門部会

石塚真由美(会長)、堀正敏(副会長)、志水泰武、金井克晃

d) 第 168 回日本獣医学会学術集会(宮崎大学主宰、会長 池田正浩教授)

シーガイア・コンベンションセンター 2025 年(R7 年)9 月 3 日(水) - 5 日(金)

宮崎大学池田先生よりご紹介。対面開催。

e) 若手研究者海外派遣事業基金制度の発足

海外での学会発表旅費サポートで今年度より発足予定。

f) 日本獣医薬理学毒性学会 新評議員 (評議員 31 名 役員 2 名)

池中良徳教授 北海道大学 大学院獣医学研究院

宇野泰広准教授 鹿児島大学 共同獣医学部

鎌田亮准教授 北里大学 獣医学部

北嶋聡博士 国立医薬品食品衛生研究所 毒性部 部長

松山勇人准教授 岐阜大学 連合獣医学研究科

水野理介教授 岡山理科大学 獣医学部

2. 日本私立獣医科大学協会、国公立獣医科大学協議会、全国大学獣医学関係代表者協議会からの報告

福山先生、私獣協、国公立協、全獣協から個別に議事録は各大学の責任者に配信されます。よって簡素化しましょう。

山脇先生(北里大学)から私獣協の協議内容について報告があった。とくに、大学選抜

試験での面接試験の実施の有無について検討され、現段階では実施しない方向で話し合いがなされた。

国公立協の協議内容について堀先生（東大）より報告があった。4月より組織改編（会長：滝口先生（北大）、副会長：佐藤晃一先生（山口大）、志水先生（岐阜大））。各大学からの報告としては、岩手大学の学部化が単独で承認される方向（R7年目処）との報告があった。

全獣協の協議内容について堀先生（東大）より報告があった。会則にそった幹事会の活用、顧問として前会長の堀内先生を招聘、各委員会の見直し、獣医学教育改革の社会的評価の検証、獣医学教育改革後の我が国の獣医学教育が直面している諸問題などについて討議された。最後に、vetCBT問題精選ソフトの一部改修が行われることが議決された（問題精選完了ボタン操作の改修）。

3. 第167回日本獣医学会学術集会（帯広畜産大学 主宰 2026年（R6年）9月10日（火）- 9月12日（木） プログラム企画

対面で実施。プログラム企画は学会最終日に委員会で話し合い。

4. 第4回東アジア合同獣医学会（Joint Meeting of Veterinary Science in East Asia）帯広畜産大学 主宰 2026年（R6年）9月8日（日）- 9月9日（月）

上記と同時期に開催。

5. 2024年日本獣医薬理学毒性学会春季大会について

幹事 北里大学 獣医学部 獣医薬理学研究室 山脇英之教授

山脇先生から報告：令和6年3月16日（土）に十和田キャンパスでの開催を予定。

6. 分科会会計報告

福山から報告：前年度の決算と今年度予算報告

7. 教員異動・昇任・新任

大阪公立大学の東先生：薬理学教室に准教授で西山和博先生が着任。

帯広畜産大学：毒性学教室に久保田先生が着任

8. その他

今回の獣医学会の優秀発表者の発表：接戦であった（直接発表や質疑応答がなかったため）

東京農工大学（獣医薬理学）：塩田よもぎさん

オルガノイド培養法を利用した犬原発性肺腫瘍に対する新規分子標的薬の探索

東京大学（放射線動物学）：鈴木圭菜さん

Dysbiosisは腸管内PGD2濃度を上昇させ、アレルギー反応を誘導する